

1

現状と課題

■ 山口県農林業の現状と課題

- 担い手の減少・高齢化が進む中、新規就業者や中核経営体の育成に努めてきました。今後、省力化や生産性向上に向け、先端技術の開発・普及、人材育成、経営スキルの向上が必要です。
- 変化に富む自然と多様な気象条件などを活かした少量多品目生産が特徴です。今後、付加価値の高いオリジナル品種等の開発・普及や計画的・効率的な生産活動の展開が必要です。

■ 農林業の担い手育成機関としての農林総合技術センター

- 「担い手支援日本一」の推進機関として、農林業の新規就農・就業者を確保するとともに、集落営農法人や林業認定事業体といった中核経営体を育成するため、農業大学校での学生教育に加え、農林業の社会人研修を段階的、計画的に進めています。
- 担い手の減少・高齢化や産地間競争の激化、先端技術の急速な進展などの状況を踏まえ、今後の担い手には、スマート農林業、6次産業化、GAP、流通・販売、コミュニケーション能力などの幅広い知識や技術等の修得が求められています。従来の農林業の実践に必須となる基本的な知識や技能等を修得する教育をベースに、カリキュラムや指導体制をより一層強化し、求められる人材を育成することが喫緊の課題となっています。

■ 社会情勢の変化とその影響

- 近年、TPP等の国際貿易自由化の活性化や、米の生産調整の廃止など、国内外の産地間競争の激化が見込まれており、農林業の競争力強化が急務となっています。
- 一方、IoTやAI、ドローン等、急速に進化する先端技術を農林業分野にも的確に導入し、活用することが求められています。

＜ 農林総合技術センターにおける担い手教育 ＞

■ 山口県立農業大学校での担い手教育（学生部門）

- ・ 農業の実践力を養うことを中心として、農業後継者や指導的役割を果たす人材を育成

■ やまぐち就農支援塾での担い手教育（社会人 農業部門）

- ・ 作目基礎研修や担い手養成研修、就農後のフォローアップ等により、法人リーダーの資質向上や農業者の技能向上など、多くの人材を育成

■ 山口県林業指導センターでの担い手教育（社会人 林業部門）

- ・ 林業機械操作の資格取得と、森林整備に関する知識習得や技術向上、専門的かつ高度な知識や技術を習得する研修により、担い手や指導者を育成

2

農林業の知と技の拠点における人材育成

本県では、先端技術を自らの経営に生かし、高い収益を生み出す人材を早急に育成することが喫緊の課題となっていることから、「やまぐち維新プラン」の重点施策に農業大学校と農業試験場等を統合した「農林業の知と技の拠点」の形成を位置づけ、先端技術の開発と、高度な技術を持つ即戦力人材の育成に一体的に取り組む体制を構築することとしました。

新たな拠点における教育の方向性の検討に当たっては、県内外の有識者で構成する「カリキュラム検討委員会」を設置し、農大生や社会人研修生、県内農林業者との意見も交えながら議論を深め、今後育成を目指すべき人材像やその実現に必要なカリキュラム、指導体制のあり方等を明らかにしました。

■ 農林業の知と技の拠点において目指す人材像

「農林業の知と技の拠点」においては、以下の4つの人材像の具現化を目指します。

I 地域農林業（中核経営体）の即戦力として活躍する者

II 先端技術を活用し、法人化を目指す者

III 農林業の技能を有し、中山間地域で活躍する者

IV 時代の変化を先取りして地域を牽引する者

■ 指導体制の強化

- 新拠点の整備に合わせ、企業や県内農林業者との連携を深め、先端技術の活用等に、一層実践的な教育がなされるよう指導体制を強化します。
- 企業・大学等との連携強化により、研究員を含めた最先端の知識や技術を有する人材を講師として活用するとともに、試験研究のフィールドやオープンラボを実習の場として活用します。
- 長年にわたり培われた技術等を確実に伝授できるよう、県内農林業者との連携を強化します。
- 学生や研修生の成長を継続的に支援できるよう、拠点のスタッフと各地の農林業者等によるサポート体制を強化します。

■ カリキュラムの充実

- 現在、農業大学校や林業指導センターで実施されているカリキュラムの内容を点検し、充実が必要と考えられる内容を整理しました。
- 社会情勢の変化や新たな拠点形成の目的等を踏まえ、農林業の実践に必須となる、基礎的な知識や技能の着実な修得を進めるとともに、目指す4つの人材像の具現化に向けて、新たな講座を設けるなど、カリキュラムを充実します（裏面「3 カリキュラム充実の方向性と内容」）。

■ 推進スケジュール

- 新拠点の供用開始に向けて、関係する条例や規則の改正等も含め、教育・研修内容を順次充実させていきます。
- 担い手の減少・高齢化や産地間競争の激化などの状況を踏まえると、中核経営体や産地が求める先端技術を駆使でき、経営感覚に優れた人材の育成が急務であることから、「スマート農林業」や「6次産業化」などの講座については、外部講師を招聘するなどの工夫により、2019年度から講義・実習内容に反映します。

方 向 性

内 容

I 地域農林業（中核経営体）の即戦力として活躍する者

下線：2019年度から実施を予定

拡 充	インターンシップや農林業の作業実習の強化	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先農業法人の拡充、派遣プログラムの充実、派遣時期の見直し 大区画ほ場でのスマート農業実習 農林業女子を対象とした農林業機械の操作研修 農業＋林業の周年作業実習
	高性能農業機械や高性能林業機械等の資格・技術取得研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ドローン等、取得資格の拡大 大区画ほ場でのスマート農業実習 農林業女子を対象とした農林業機械の操作研修
	6次産業化やGAPに関する講義・実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の招聘（6次産業化・農商工連携、GAP等） 商品開発（農大ブランド）実習
	販売戦略から経理までの一体的な販売実習の強化	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の招聘（販売戦略、マーケティング等） 販売・経理に関するプランニング実習
新規	県内拠点（山口大学農学部等）との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 大学教員の招聘

II 先端技術を活用し、法人化を目指す者

拡 充	試験研究成果を取り入れた農林業の作業実習や技術研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研究員による新品種の栽培方法・新技術の指導
	スマート農林業に関する講義・実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大区画ほ場でのスマート農業実習 外部講師の招聘（現場データの収集、活用に関する講義）
新規	研究員による講義の導入	<ul style="list-style-type: none"> 研究員による講義（新品種の栽培方法・新技術の指導）
	民間企業や大学との連携による流通や通信技術、AIに関する基礎講義の導入	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の招聘（マーケティング、先端技術等）

III 農林業の技能を有し、中山間地域で活躍する者

拡 充	短期研修（農家生活体験）の充実	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の拡充、派遣プログラムの充実、派遣時期の見直し
新規	出身地や農村で開催される行事への積極的な参加誘導	<ul style="list-style-type: none"> 経営プロジェクトへの地域課題解決手法の導入
	農業と林業を組み合わせた複合経営研修の導入	<ul style="list-style-type: none"> 農業＋林業の技術修得、農業＋林業の周年作業実習、農業者と林業者との合同研修（特用林産物の活用等）

IV 時代の変化を先取りして地域を牽引する者

拡 充	他業種との交流活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の招聘（ファシリテーション、農福連携等）
	コミュニケーション能力やリーダーシップの向上につながる講義・演習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の招聘（コミュニケーション、リーダーシップ、地域プロデュース等）
新規	専攻以外の講義への参加誘導	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進路に応じた授業科目や研修の選択拡大
	ビジネスマナー研修や接客研修の導入	<ul style="list-style-type: none"> 専門事業者によるビジネスマナー研修